

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<h1>会 報 第 117 号</h1>	2011年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
-------------------------------	----------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—3月29日（火）22年度会計監査

—4月02日（土）23年度総会

22年度活動報告、会計報告、監査報告後、23年度活動計画（案）特に稲作体験学習を含む「親子自然観察会」の新活動計画案等承認されました。

その他「NPO法人宇部環境コミュニティ」との係り合い説明
創設以来の退会者の名誉会員名簿作りの提言が有りました。

※参加できなかった方は早い時期に年会費納入をお願いします。

—4月16日（土）親子自然観察会

第一回親子自然観察会（食べられる野草）を実施しました。

ビオトープ周辺の春の七草を主体に食べられる野草をたくさん採取し、北村講師より講話の後、つくる会女性会員がつくったおむすびと一緒に新鮮な天ぷらを食べました。

参加者 親会員11名、子会員10名、シニア会員4名、ジュニア会員6名、つくる会
会員スタッフ22名 合計53名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎行事

—5月01日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）

—5月21日（土）親子自然観察会（野鳥観察、野鳥の会より講師を招きます）

—5月22日（日）宇部環境コミュニティ総会 ヒストリア宇部にて

※7月に2件「フジとキラメキ子どもエコクラブ」の主に須賀河内川での学習

「福川こどもクラブ」の活動が例年の通り行われ、それぞれ案内講師3～4名を募集します。

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありませんので、今月はありません

4. 会員の声

今月はありません。

5. 親子自然観察会「食べられる野草」(4月16日、子供20名、保護者11名、会員22名) (北村 健治 記)

平成23年度・親子自然観察会(管リーダー)の第1回は4月半ばにも関わらず早春の気温の寒さの中で開催された。

極少数の欠席者はあったものの参加者全員元気いっぱい野山を駆け回り春の自然を満喫した。

当日は、春の「食べられる野草」がテーマであり、春の七草を中心にビオトープ内で採集し、かつ、調理して食べることを目的に行われた。

各自思い思いに会員の手ほどきのもと野草を摘み取ったが、中にはヤブツバキの蜜の吸い方を学んだり、スカンボやノビルを生でかじる体験をさせたりもした。

事前に下見調査をして採取リストを作成したものは、ハハコグサ、セリ、ハコベ、ナズナ、タビラコ、タンポポ、スマレ、アザミ、レンゲ、ヨモギ、ヨメナ、オランダミズガラシ、カラスノエンドウ、スイバ、ツクシ、ワラビ、フキ、アサツキ、サルトリイバラ、ミツバアケビ、シオデ、クズ、キキョウ、ノビルなど約20種あったが、実際には七草の1つであるタビラコは当地には存在せず(2年前にはあったと思う)更にキキョウ、クズ、樹木のタラの芽やコシアブラは時期早々で、タケノコさえ僅かしか採取することができなかった。

唯一、シオデは存在するも誰も採取せず、説明だけでは無理があったようだ。

他に、当地には春の「食べられる野草」には、ノカンゾウ、ヤブカンゾウ、ヤブレガサ、アカザ、イタドリ、ウツボグサ、ハルジオン、タネツケバナや樹木では、ホーバ、リョウブなど沢山あるが、別の機会に回すこととする。

今回は、会員の皆様には準備不足は否めないもので大変迷惑をおかけしたと思う。

採取時間は1時間半ではあったが、採取したものは早速、女性会員の皆様方に調理して頂いたが、調理法が上手で美味しく、天ぷらが足りない状況で食べていない人もあったが、この飽食の時代に野草を食べることは一般家庭では、このような機会しかなく、自然には自分の知らない発見が沢山あることを知るという意味では、親子自然観察会は大変意味があるのではないのでしょうか。

いずれにしても、自然には危険がいっぱいで、当日も多少危ない場面もあったが、恐れず、自然の良さを子々孫々に伝えていくことができれば、これまた、親子自然観察会の意義です。

次の機会には、天ぷらのみでなく、おひたし、あえものなど、野草本来の味わい方を体験できる機会を持てることを祈念して第1回の報告とします。

(管 哲郎 記)

はじめに

ビオトープの継続も決まり、いよいよ今年第1回目の観察会が始まりました。新しい責任者(隊長?)として西原一誠さんに代わって管 哲郎が勤めることになりました。これまでは昆虫の担当者として経験してきましたが、総合的な責任者としての仕事は初めてであり、いろいろと行き届かぬことが多く、会員や参加者の皆様へご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ビオトープというすばらしいフィールドを与えられましたことを最大限利用し、皆様と楽しく自然を満喫できるような観察会を進めてゆきたいと思っています。よろしく願い申し上げます。

春の観察（食べられる野草）

雨の予想をしていましたが、皆さんの行いが良かったのか幸いにもうす曇のお天気に恵まれて、最高の観察会のスタートが切れました。10分遅れの9:10より始まり、最初の10分間は会長の挨拶と事務局、リーダーよりの連絡事項や注意事項の伝達を済ませたのち、本日の担当者である北村健治さんによる食べられる野草、春の七草の説明を受けたのちそれぞれフィールドに散りました。

最初の観察会であったにもかかわらず、うっかり、参加者の自己紹介を省略してしまいました、やはり初めから失敗してしまいました。次回の野鳥観察には遅まきながら自己紹介をしていただく予定です。もちろん、会員の方々にも簡単に自己紹介していただきます。よろしくお願いいたします。

北村さんより“食べられる野草”のリストを30種類作っていただき、全員に配布し探しました。また、“春の七草”をわざわざ小鉢に植えて並べていただき、大変勉強になりましたし、スズナ、スズシロ、クズ、キキョウ、タラノメ、タビラコ、タチツボスミレの7種以外はすべて採集できました。

11時に集合し、採集した野草を北村さんに確認していただいた後、テンプラにしておいただき、用意されたオムスビやヒサカキのお茶と一緒に全員で賞味しました。事前にタケノコやシイタケもたくさん用意してあったのですが、子供たちも良く食べ、少し残る予定でしたが全て食べられてしまったようです。私の感想ですが“塩”だけの味付けで大変おいしく、久しぶりに贅沢な山菜料理をいただいたと思います。子供たちが良く食べた理由が分かります。～調理方会員に“感謝、感謝”～です、ありがとうございました。また、準備をしていただいた会員の皆様方、ご苦労様でした！

その他

野草の採集途中に子供がトンボの羽化シーンを発見し、近くに居た子供達と観察しました。

タバサナエという春一番に出現するサナエトンボで、すでに4月12日にビオトープで羽化が始まっています。今年は3月が少し寒かったせいで、草花の成長や昆虫類の出現が遅れています。いつもならタバサナエは4月の初めに羽化が始まるのですが、今年は少し遅いようです。

今日欠席の会員の内、1家族は連絡の不備があり観察会に出席が出来ませんでした。大変心苦しく思っています、このようなことの無きよう、努力したいと思えます。申し訳ございませんでした。

至らぬことが多く、ご迷惑をおかけしますが、皆さんの叱責は喜んでお受けせねばと思っています。ビオトープ発展の為に、皆さんの力を貸してください、これからもよろしく！

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(35) トラフトンボ (エゾトンボ科トラフトンボ属) *Epitheca marginata* (Selys)

4月上旬より6月末までみられ、5月には最盛期を迎え池の上空を縄張り飛行する姿があちこちで見られます。本州、四国、九州に分布し普通に見られますが、東北地方では産地が限られるようです。あまりなじみの無いトンボですが、春一番に池の上を飛行する小型のトンボで、ため池でも比較的大きく植生豊かな池を好み、ビオトープでも飛ぶ姿が見られます。昭和山に登る途中の池で羽化は確認していますが、ビオトープでの羽化はまだ確認できていません。しかし発生していると思われしますので今年には確認しておきたいと思っています。

雌トンボの翅には黒褐色条が見られますが、山口県など瀬戸内地方では黒褐色条の無い個体が見られるようです。珍しいので是非探してみてください。

羽化は7:00頃より始まりますがヤゴは真夜中3:00頃より上陸し、草や笹、木の枝などによじ登り夜明けを待ちます。50cm~1mほど登ったところで定位静止して羽化が始まります。

しかし、天敵のクモが多く待ちうけ、下の写真のように上陸途中のヤゴや羽化途中を襲います。

ゾトンボの体色は金緑色が多いのですが、本種は黄色に黒とトンボ科に近い色をしています。春になって池の上を低空飛行している小さなトンボが私です、探してみてください。



上陸するヤゴ AM3:00頃



クモに襲われるヤゴ



羽化途中クモに襲われるヤゴ



羽化がほぼ終わる



休止中の♂



休止中の♀



(羽化3態) 胸を抜きぶら下がり



体を殻から抜く



翅が大きく広がる

6. 会よりの連絡事項（事務局より）

5月下旬をめどにビオトープのフィールドが宇部市の土地に登録され、いよいよ本格的なビオトープ活動に移行されます。一応宇部市から環境コミニテイ経由での借用となりますが、活動は今まで通りです。

7. 編集後記

今年の春の訪れは遅く、ビオトープのアカガエルの産卵も一カ月近く遅かった。二俣瀬のカスミサンショウウオの産卵も確認されたが、寒波が何度か訪れてうまく幼生になっていないようである。（無精卵の可能性もある）また、ニホンヒキガエルの卵も確認され、これはオタマジヤクシに立派に成長している。今後が楽しみである。

私個人では、今年の初めから霜降山周辺の調査をしている。特に、男山の南側を中心として、2・3月に毎週のように出かけて様子を観察した。アカガエル（おそらくニホンアカガエル）の産卵はあちらこちらで確認できた。宇部市のHPで確認できる2004年の自然環境調査報告書でも、霜降山で僅かではあるがカスミサンショウウオが確認されており、それを見つけるためにいろんな所を歩きまわった。そしてやっと何箇所かカスミサンショウウオの親と卵を確認した。その全てがイノシシのヌタ場であった。全体に溜池の水位は低く、カスミサンショウウオはイノシシに助けられているようである。そして、ここでもニホンヒキガエルの卵を何箇所か確認できた。霜降山は市民の憩いの場所であり、多くの人が遊歩道をハイキングされていたが、直ぐ近くに多くの生き物が生息していることをあまりご存じないのは残念でもある。でも公表すると盗掘などされることもあり、非常に寂しさを感じている。そっとしておいてやるのが一番彼らにとって良い事かなと感じている状況です。

（西原 一誠 記）